



徴古館報 第42号 令和5年(2023)2月発行



左大臣・右大臣人形 江戸時代後期(19世紀)

令和4年度の展覧会

令和4年度は以下の展覧会を開催しました。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらの開催でしたが、関連講座・イベントや出前講座などを行い、コロナ禍前の状況に近づけるとともに、SNSの発信にも力を入れています。



「鍋島家のお姫さま」展(令和4年6月18日～8月21日)

本展では、鍋島家から他家に嫁いだお姫さまはもちろん、他家から鍋島家へ嫁いでこられたお姫さまたちについて、彼女たちが紡いだご縁を徴古館に伝わる資料をひも解きながらご紹介しました。

各家の家紋が散りばめられた華やかな婚礼道具、お姫さま自身の手による書画や細工物、縁組から婚礼までを詳細に記録した婚礼記録(古文書)を展示し、彼女たちを身近に感じていただける展示になりました。

また、本展ではミニリーフレット「くずし字を読んでみよう!」を配布しました。くずし字に触れたことがない人にも興味を持ってもらえるように「ウォーミングアップ編」からはじまり、展示資料を実際に読む「チャレンジ編」を掲載。SNSで紹介したところ、大変ご好評をいただきました。ホームページにPDF版を公開しておりますので、ぜひご覧ください。



▲くずし字小冊子PDF



「みんなで選ぶ! 鍋島家伝来 きもの総選挙」展(1階) 鉄道開業150年記念ミニ展示「佐賀藩と蒸気車」展(2階) (令和4年9月17日～11月23日)

徴古館の1階と2階で2つの展覧会を同時開催しました。

【1階】「みんなで選ぶ! 鍋島家伝来 きもの総選挙」展

鍋島家伝来の小袖や袴、能装束など様々な装束の中から、事前に開催した人気投票で特に人気の高かったもののほか、館長や学芸員が選んだ着物を候補者に見立て、選挙(人気投票)を行うという形で開催しました。館内やweb上の投票所で投票を受け付け、投票総数は898票、来館者数は1,364名となりました。

また、資料説明キャプションには14代今泉今右衛門氏や佐賀大学生など外部の方から頂戴したコメントも掲載し、来館者からは「多角的、多面的な視点で作品を見ることができた。」「説明のプレートなど、共感できるものが多く、また投票に参加でき、楽しく観られました。」「親近感をもって拝見できました。」などのご感想をいただきました。

【2階】鉄道開業150年記念ミニ展示「佐賀藩と蒸気車」展

明治5年(1872)10月14日の鉄道開業から150年を迎えたことを機に、鈴木一義氏(国立科学博物館 名誉研究員)のご協力のもと開催しました。幕末の佐賀藩で研究のために作られた蒸気車雛形を筆頭に、佐賀藩精煉方での科学技術研究の一端をご紹介します。



「鍋島家の雛祭り」展(令和5年2月11日～3月21日)

侯爵鍋島家歴代夫人が愛でたおひなさまをご紹介する恒例の展覧会です。往時の雛祭りにならった幅6mと5mの大雛壇を中心に、11代夫人栄子様(なご)の次郎左衛門雛(じろうざえもんひな)や13代夫人紀久子様(きくこ)の有職雛(ゆうそくひな)など、約500点の雛人形・雛道具が並びました。

特集展示では「食」の雛道具にちなみ、鍋島家に伝わる和・洋の食器をご紹介。雛道具と実際のお道具を比較することができます。また、11代直大公(なおひろ)の御膳(ごぜん)や、東京の鍋島邸(なまぐさ)で実際に使われていた柴付(しばつけ)杏葉紋(あんようもん)散洋食器(さんやうしょくぎ)などが並び、鍋島家の食卓(しょくたく)を想像させる展示です。

さらに今回、佐賀城本丸歴史館および佐賀市観光振興課・観光協会のご協力のもと、徴古館の雛人形を佐賀城本丸歴史館で展示しました。佐賀城で飾られていたと考えられる左大臣・右大臣人形が約150年ぶりに佐賀城へ里帰り! 13代夫人紀久様(きくこ)の次郎左衛門雛(じろうざえもんひな)と一緒に、佐賀市内の小中学生がつくったオリジナルひな人形を展示する「子どもひなの宴」を応援します。



▲佐賀城本丸歴史館での展示風景

『愛娘への手紙 一貢姫宛て鍋島直正書簡集』を地域へ

徴古館では、10代佐賀藩主鍋島直正公が長女貢姫様へ宛てた自筆の手紙の解説に平成17年より着手し、これをまとめた資料集『愛娘への手紙 一貢姫宛て鍋島直正書簡集』を令和2年に出版しました。「名君」として知られる直正公の人となり、娘を思う父としての姿を垣間見ることができる一冊です。令和3年度には「市報さが」(毎月1日号)で「愛娘への手紙」と題して連載し、直正公のお手紙をより分かりやすくご紹介しました。そして令和4年度、佐賀市教育委員会と佐賀鍋島伝承遺産顕彰会のご協力により、より多くの方々に知っていただく事ができました。

■「愛娘への手紙」小冊子の配布

佐賀市との連携事業「徴古館を活かした観光推進業務」の一環として、市報さがで連載した内容を小学生向けと中学生向けに再編集し、小冊子を作成しました。本書では、市報さがの連載内容に加え、幕末期の佐賀藩や鍋島直正公、貢姫様についての解説、附録として幕末期年表と小冊子活用ガイドを掲載しています。

令和4年11月17日、佐賀市教育委員会のご協力のもと、佐賀市校長会において、鍋島房子館長から岡直志校長・手塚嘉浩校長へ贈呈させていただきました。小冊子は、佐賀市立小学校に通う小学4～6年生の全児童と佐賀市立中学校の全生徒、県内の各学校、公立図書館に配布しました。佐賀県内の公立図書館でどなたでもご覧いただけます。小冊子を通じて、郷土の歴史や人を大切にすることを育んでいただけますと幸いです。

■佐賀鍋島伝承遺産顕彰会より佐賀県へ贈呈

小冊子の配布から2ヵ月後、『愛娘への手紙 一貢姫宛て鍋島直正書簡集』400冊が、佐賀鍋島伝承遺産顕彰会より佐賀県へ贈呈され、令和5年1月19日に佐賀県庁において、松尾哲吾顕彰会会長から山口祥義佐賀県知事への贈呈式が行われました。顕彰会からは寄附を通じて徴古館活動に対して毎年ご支援をいただいております、この書簡集もそのお陰をもって頒布が叶ったもので、県庁を通じて学校や図書館に配布され活用の途を広げて頂きました。



▲小冊子贈呈式の様子



▲書簡集贈呈式の様子

地域連携研究会(勉強会)

佐賀の地域史に携わる博物館や文化財関係機関等と共同で勉強会を開催しています。なお、この勉強会により得られた成果は、展覧会やイベント等を通じて地域に還元します。

■ガラス湿板写真に関する勉強会

6月30日、高橋則英氏(日本大学芸術学部 特任教授)を招聘し、当財団所蔵の古式カメラ(3点)に関する調査および講義を行っていただきました。うち1点は、国産最古のカメラである可能性が示されており、他2点はそこから徐々に改良が加えられていく様相を辿ることができます。高橋氏からは、それらの根拠となる点や国内に現存する他のカメラとの差異、カメラと写真の歴史や仕組みなどをご説明いただきました。

また、7月1日には猪股良文氏と大野深美氏(一般財団法人 戸部記念財団 atelier-chataigne)を招聘し、別のカメラを使用して実際に湿板写真の撮影体験を行いました。当財団には、佐賀藩医の川崎道民が10代藩主鍋島直正公を写した湿板写真が現存していますが、まさに当時の写真術を追体験するような貴重な機会となりました。

■イベント「昔のカメラで撮影体験！」

上記の成果を活かし、11月12日にガラス湿板写真の撮影体験イベントを開催しました。3回開催し、計11名の参加者は撮影のためのガラス板の研磨や薬品の塗布、被写体として写真に写るなどの工程を体験しました。参加者からは「昔の写真への見方が変わった」「昔の偉人たちと同じ体験ができて満足」との声が寄せられました。

■からくり人形に関するイベントおよび勉強会

2月26日、27日には鈴木一義氏を招聘し、「からくり ～近代に繋がる江戸の知恵と技、そして好奇心」をテーマに、からくり人形の実演・見学会(一般公開)および勉強会を開催します。



▲湿板写真の勉強会の様子



▲撮影体験イベントの様子



次世代との交流

現在、徴古館が取り組んでいるひとつの方向性に次世代との交流があります。令和4年度はこれまでの交流を続けながら、新たな取り組みも実施しました。

■研究助成

令和4年度から新制度となった研究助成がスタートしました。既存の「論文コース」は年齢の上限を設け(原則39歳以下)、県内の小学生～大学生を対象とした「探究活動コース」を新設しました。

4月6日、徴古館において研究助成授与式を執り行いました。新設の「探究活動コース」は佐賀市少年少女発明クラブと佐賀市立鍋島中学校が採択され、小学生から中学生の児童・生徒による探究活動が行われました。「論文コース」でも若手研究者を中心に3名の方に決定しました。授与者・研究テーマは当館のホームページでご紹介しています。



▲ 令和4年度研究助成授与者

■佐賀大学生との連携

令和3年度に引き続き、展覧会期間中の徴古館の受付・接客、広報作業を佐賀大学生6名と一緒に行いました。「鍋島家の雛祭り」展においては、学生3名に展示設営作業を体験していただきました。参加した学生からは「資料に触ること自体が初めて」「陶磁器の取扱いは経験があるが、御人形等は初めて」との声もあり、経験の幅を広げる機会を提供することができました。



▲ 「鍋島家の雛祭り」展示作業の様子

また、令和4年度の新たな取り組みとして、古文書の整理(近代文書のクリーニング、目録採り、中性紙箱への移替えなど)を佐賀大学生1名と一緒に行いました。古文書の整理は根気のいる作業ですが、資料を残すため、活用するための最も根幹となる作業を支えて頂いています。



▲ 古文書の整理作業の様子

■能楽体験イベント「みる きく ふれる お殿様も愛したお能」

11月27日、佐賀キワニスクラブとの共催で小学生～高校生向けの能楽体験イベントを開催しました。子どもたちと保護者を含めた34名の参加者は、白坂保行氏をはじめ5人の能楽師による舞や演奏を鑑賞したほか、能楽師からの分かりやすい説明を受け、実際に楽器に触れながら演奏方法を学びました。



▲ 能楽イベントの様子

会場内には、歴代藩主のなかでも特に能楽への造詣が深かった3代綱茂公つなしげの縫箔ぬいばくなど鍋島家伝来の能装束や楽器も展示し、視覚・聴覚・触覚で楽しみながら歴史と伝統芸能に触れられるイベントとなりました。



佐賀市との連携

当館では、平成23年度より佐賀市による委託事業「徴古館を活かした観光推進業務」を行っています。前述の小冊子の作成、市報さが(令和4年度テーマ「鍋島家のお姫さま」)での連載のほか、徴古館で開催する企画展やイベントの広報にもご助力いただきました。3つの企画展(2ページ参照)に加え、2つのイベント(昔のカメラで撮影体験(3ページ参照)／プレイエル小音楽会)も本事業の一環として開催したものです。

そして令和4年度は新たに佐賀市との共催で「佐賀市松原の歴史展」(パネル展)をNHK佐賀放送局1階のホールをお借りして開催します。松原は徴古館が位置する場所でもあります。戦国時代から今に続く松原の歴史を後世に伝え、これからのまちづくりに活かしていきたいと考えています。

徴古館報 第42号 令和5年(2023)2月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX 0952-23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL <https://www.nabeshima.or.jp>